

うるま市
(津堅地区)

⑧沖縄県うるま市津堅地区

現地コーディネーター等の活動による相続未登記農地の活用

「取組のポイント」

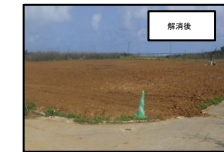
- ✓ 現地コーディネーター等による相続関係者への農地中間管理権の取得の協議申入れ
- ✓ 企業参入に向けた所有者等との話し合い

地区の概要

津堅地区は、不在村地主が多い地域であり、約6割が相続未登記である。また、島外への人口流出と農業従事者の高齢化により、荒廃農地の増加が危惧されている。そこで平成29年度から農地バンクを活用した農地集積に取り組み、令和3年度までに地区内の農地の約35%にあたる28.6haを担い手に集積。

取組の成果

- 所有者不明農地(相続未登記)の2割(9.3ha)に農地中間管理権
- 農地耕作条件改善事業による荒廃農地の再生(8.6ha)



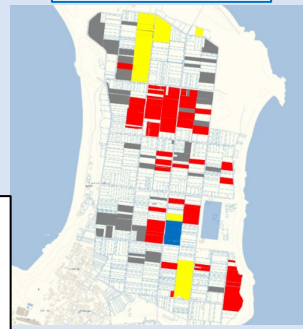
取組の内容

- ① 津堅地区で野菜栽培を希望する県外の企業Fは、農地バンクに借り受けを応募。
- ② 農地バンクは、農業委員会等と連携し、企業の農業参入を積極的に進める観点から、農業委員会が相続関係を整理し、現地コーディネーターが、農地バンク事業を活用した荒廃農地の再生(農地耕作条件改善事業を活用)と当該企業Fへの農地の貸付に対する地元説明をそれぞれ役割分担の下に実施。
- ③ 現地コーディネーターの相続未登記農地等の活用に向けた取り組みが、所有者等へ浸透し、荒廃農地の再生により新たな企業Gの参入や地元農業者による法人設立(特産品の「ニンジン」生産)等に繋がり、相続未登記農地の2割(9.3ha)に農地中間管理権を取得し、県外企業F等に転貸。
- ④ 農地バンクを活用した荒廃農地の再生、相続未登記農地の活用により、地域産業が活性化。

バンク活用前(H28)



バンク活用後(R3)



- : 法人経営体A～E(担い手)
- : 参入企業F(担い手)
- : 法人経営体H
- : 参入企業G

農地バンク活用面積	借入面積	16.3ha
	転貸面積	16.3ha
	新規集積面積	16.3ha
地区内農地面積	82.9ha	
集積面積・集積率	13.2ha(15.9%)	28.6ha(34.5%)
平均経営面積	2.6ha/経営体	4.8ha/経営体
平均団地数	5.8ha/団地	6.5ha/団地